

下部消化管（大腸）

内視鏡検査 予約票

ふりがな

様 男 ・ 女

検査日時： 月 日 時 分 時 分 来院

【 検査について 】

この検査は、大腸を空にして行います。便等の残りカスが残っていると、検査の妨げになり検査時間が通常より長くなるなどし、場合によっては検査を中止することもあります。検査を安全に行う為、注意事項をよくお読みになり検査をお受け下さい。

【 注 意 事 項 】

1. 検査2日前より種のある果実や海藻類、ネギ類、こんにゃく類等の消化の悪い物は控えて下さい。食事の量は、いつもと同じ量で構いません。
2. 朝、血圧の薬を内服している方は7時までには、多めのお水で内服してきて下さい。
他のお薬の服用方法については、主治医にご相談して下さい。（自己判断による中止は不可）
3. 高齢の方や、検査に不安のある方は、付添いの方と一緒に来院して下さい。
4. 検査室で腸の動きを止める薬を注射します。
5. 検査中は、医師、看護師の指示に従って下さい。
6. 緑内障、心臓病、前立腺肥大と診断された事のある方は、検査前に必ず申し出て下さい。
7. 腹部の手術を受けている方や、腸の病気をした事のある方等は、挿入時腹痛がある場合があります。また検査医師の判断など、必要に応じて点滴や注射等で鎮静剤や鎮痛剤を投与する事があります。その為検査当日は、自転車・車・バイクの利用はせず公共交通機関等をご利用下さい。
8. 検査後、体調に異常を感じた場合は、当院へご連絡下さい。
9. 検査当日は、自転車・車・バイク等の利用はせず、公共交通機関等をご利用して下さい。
10. 検査中にポリープ切除を行った場合は、1週間程度運動や旅行は出来ません。
11. 検査内容によりお待ちいただく時間やお呼びする順番が前後する場合がありますが、ご了承下さい。
12. 病院1階の 受付窓口 で受付をして下さい。
13. 予約日時にご来院出来ない場合は、お早めにご連絡下さい。

大腸内視鏡検査および内視鏡的ポリープ切除術の説明・同意書

説明医師

【大腸内視鏡検査（CF）とは】

大腸内視鏡検査は、ファイバースコープを用いて、大腸におこる病気（ポリープ、がん、大腸炎など）の診断をします。大腸がん検診後の精密検査にも行われます。

【検査の内容について】

検査前までに使用する機器の適切な選択と検査後消毒のため、事前にウイルス等の感染症（B型肝炎、C型肝炎、梅毒）を調べるための血液検査をします。そして大腸を空にする処置を行った後、検査をします。所要時間は個人差がありますが、長くても30分前後です。大腸の動きを抑制するために鎮痙剤の注射を行います。（人によっては鎮静剤を使う場合があります。）大腸の屈曲部の通過の際に多少の痛みを感じたり、お腹が張ったりしますが、検査後ほとんどはすぐに消失します。検査中にポリープなどの病変が認められた場合、一部を切除（バイオプシー）または全てを切除（ポリペクトミー）し病理学的な検査をします。

【検査の安全性・起こりうる合併症】

大腸内視鏡検査は安全な検査ですが、以下の合併症が考えられます。

軽度なもの： 鎮痙剤、鎮痛剤によるアレルギー反応、気分不快、軽度の腹痛、検査後の少量の出血 など
これらはほとんどの場合、時間の経過とともに改善します。

重症なもの： 粘膜損傷による多量出血、腸穿孔（腸に穴が開く） これらは大きなポリープを切除する場合起こる可能性があります。合併症によっては入院となり、輸血、緊急開腹手術、その他の治療が必要になることもあります。これら合併症の発生頻度は約1500件に1例（約0.07%）とされています。

大腸内視鏡検査および内視鏡的ポリープ切除術同意書（兼短期滞在手術同意書）

社会福祉法人 浅草寺病院 病院長 殿

- 私は、大腸内視鏡検査、内視鏡的ポリープ切除術と必要に応じた処置や治療、およびその危険性と合併症およびその対処法について説明書の記載事項を読み、また医師からの説明にてその内容を理解し了承しました。
- 私は、内視鏡の感染防止のための血液検査の必要性について理解し了承しました。

以上予定される検査、ポリープ切除術および関連事項についてよく理解できましたので、検査の実施を申し込みます

年 月 日

患者（自署） 氏名 _____
※自署の場合は押印不要です

代理人 続柄 _____

氏名 _____

消化管内視鏡検査時の抗凝固薬・抗血小板薬の取扱について

内視鏡検査の際、抗凝固剤、抗血小板剤を服用されていますと組織採取（生検）やポリープ切除などの処置を施行する際、出血が止まりにくくなる可能性があります。従ってこれらの薬を服用されている方は、内容・症状により検査前に一時的に休薬や変更（置換）をお願いする場合があります。但し、可能性は低いですが、休薬や変更（置換）により血栓・塞栓症を発症する可能性もあります。

現在内視鏡学会ガイドラインでは服用されている原因疾患及び検査・処置内容により休薬の有無に関して、基準が設けられています。

この基準を参考に休薬や変更（置換）について事前に主治医と相談していただく必要があります。通常観察のみでの休薬や変更（置換）の必要は御座いません。他院や他科から抗凝固剤、抗血小板剤を処方されている場合は、必ず確認のうえ検査前までに当院医師、スタッフに申し出て頂く必要があります。

以上より主治医（処方医）と相談後、休薬・変更（置換）が必要な場合には、主治医が判断し以下の通り指示致しますので、ご確認下さい。再開については、内視鏡施行医が当日検査終了後に判断致します。

【今月（ 月 日 ）の内視鏡検査時に休薬・変更（置換）する薬剤及び期間】

薬剤名	
中止日	年 月 日 印
再開日	年 月 日 印

内視鏡検査時の鎮静剤使用に関する説明

内視鏡検査の際に、苦痛を感じられる方もいらっしゃいます。

その苦痛を鎮静剤の使用にて軽減し、検査を行うことが出来ますが、その効果にも個人差があります。

当院では原則的に鎮静剤を使用しておりませんが、どうしても、鎮静剤の使用を希望される方については、検査当日に施行医と相談して頂き使用することは可能です。

尚、鎮静剤使用では、以下に挙げるような偶発症が増える可能性があります。

低血圧、心臓、肺疾患の症状が深刻な方、高齢の方には、医師の判断で鎮静剤が使用できないことがありますので、予めご了承ください。

〔鎮静剤の偶発症〕

（消化器内視鏡学会による全国調査では、鎮静剤使用時の偶発症発生率0.0013%、死亡率0.000024%と報告されています。）

鎮静剤注射部の炎症、静脈炎、血管痛、アレルギー、血圧低下、不整脈誘発、呼吸抑制（呼吸停止）、酸素低下、覚醒遅延（目が覚めにくい）、健忘（記憶がなくなる）。

〔鎮静剤使用時の注意事項〕

覚醒（目が覚める）後も鎮静剤の影響が残る場合があります。検査後、約1時間は病院内で休んで頂く必要があります。また検査当日は、自動車、バイク、自転車などの運転はできません。可能であれば、検査当日は、どなたかに付き添っていただくことが望ましく、特に70歳以上の方につきましては、必ずどなたかが付き添って頂く必要があります。

検査2日前からの食事について

食べてよいもの



素うどん



お粥



豆腐



やまいも



じゃがいも
(皮は食べない)



食パン



バナナ



りんご
(皮は食べない)



透明の
キャンディー



プリン

避けていただきたいもの



日本そば



ひじき



わかめ



もやし



えのき



こんにゃく



ごぼう



豆類



とうもろこし



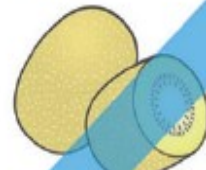
なっ葉野菜



切り干し大根



すいか



キウイ



イチゴ



ジャム



てんぷら・あげもの